
序 文

外科医にとって、いかに自己の手術技術を向上させるかは最も大きな関心事である。1つの手術は多数の手順に分解され、その手順を十分理解した上で、個々の手順を着実に進めていくことによって最終目的が達成され则认为。術前にはプロセスの分解と再統合のイメージング、術中には術者あるいは助手としての実践とオンサイトの指導、エキスパートによる手術の観察および想定外の事態への緊急対応法を経験し、術後には行った手術の振り返りを行う。これを反復することによって向上していくものとする。

『ビジュアルサージカル 呼吸器外科手術 縦隔・胸膜・胸壁』は、呼吸器外科に興味を持つ若手外科医、呼吸器外科専門医を目指して修練中の医師を主な対象とし、縦隔・胸膜・胸壁疾患に対する手術手技の中から、特に基本的で頻度の高い手術、高難度だがぜひ知ってほしい手技、および近年保険医療として認められたロボット支援手術を選んで取り上げた。対象疾患としては胸腺上皮性腫瘍、後縦隔腫瘍、胸膜中皮腫、悪性胸壁腫瘍などの腫瘍性疾患から自然気胸・膿胸・漏斗胸などの非腫瘍性疾患まで幅広い内容を含んでいる。

いずれの手術手技についても、多くの手術経験を有する指導的な第一人者による執筆をいただき、手術の基本的な手順、および1つ1つのプロセスにおける手術のコツについて著すとともに、直感的な理解を助ける精巧なイラストを多く配した。さらに、本シリーズにおける新企画として、書内のQRコードからWEBを介してスマートフォンやタブレット端末に出力される手術ビデオを視聴することができる。

昔から外科医の修練方法は特定の指導者からマンツーマンで手術の手順・基本的手術手技や、随所のコツを現場で伝授されることによって行われるものであり、現在においてもそれは最も重要なことであるとする。しかし、同じ手術でも様々なアプローチや技術が用いられることを本書によって知っていただき、日常の診療に役立てていただければ、編者・著者にとっては本意が遂げられたと感じる。

最後に、本書の編集・制作にあたり、多数の図・画像や映像を用いて大変わかりやすくご解説いただいた執筆者の先生方、そして本企画実現のため、編集・発刊において中心的に携わられた学研メディカル秀潤社の谷口陽一氏に心より感謝申し上げます。

2020年8月

東京大学医学部附属病院呼吸器外科 教授
中島 淳